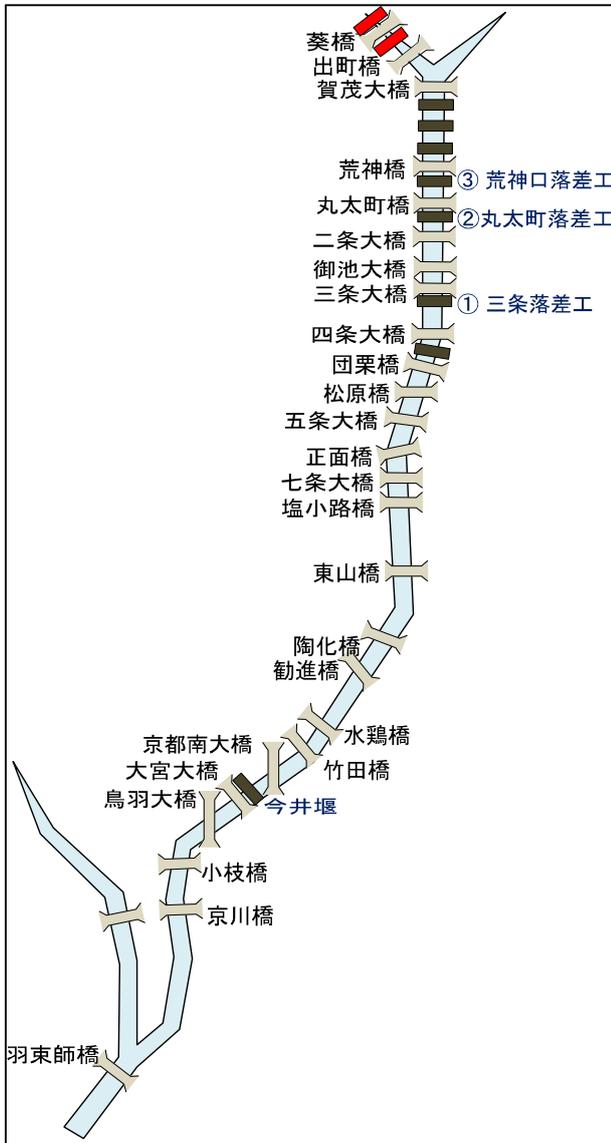


## 魚道の設置について

京都府水産課



## 1 魚道設置の位置づけ

鴨川における天然アユの遡上を目指し、「京の川の恵みを活かす会」により平成23年度から落差工に簡易魚道を設置する取組が開始され、京都府も京都市とともにこの取組を支援し、順次、上流に向かって設置箇所を増やしてきました。

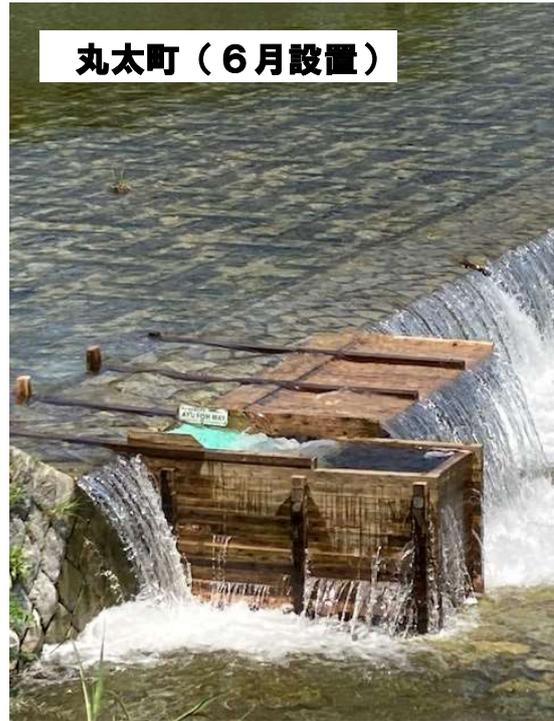
鴨川河川整備計画を受け具体的な実施計画をとりまとめた「千年の都・鴨川清流プラン」においても、鴨川の落差工等が魚類等の遡上の支障となっているため、「魚道等の設置により、河川の縦断的な連続性を確保する」こととしています。

また、魚道設置のように海から川への連続性を確保する取組は、平成30年3月策定「京都府生物多様性地域戦略」においても「森里川海のつながりの回復による多様な生態系の保全」として行動計画の4つの柱の一つに掲げられています。

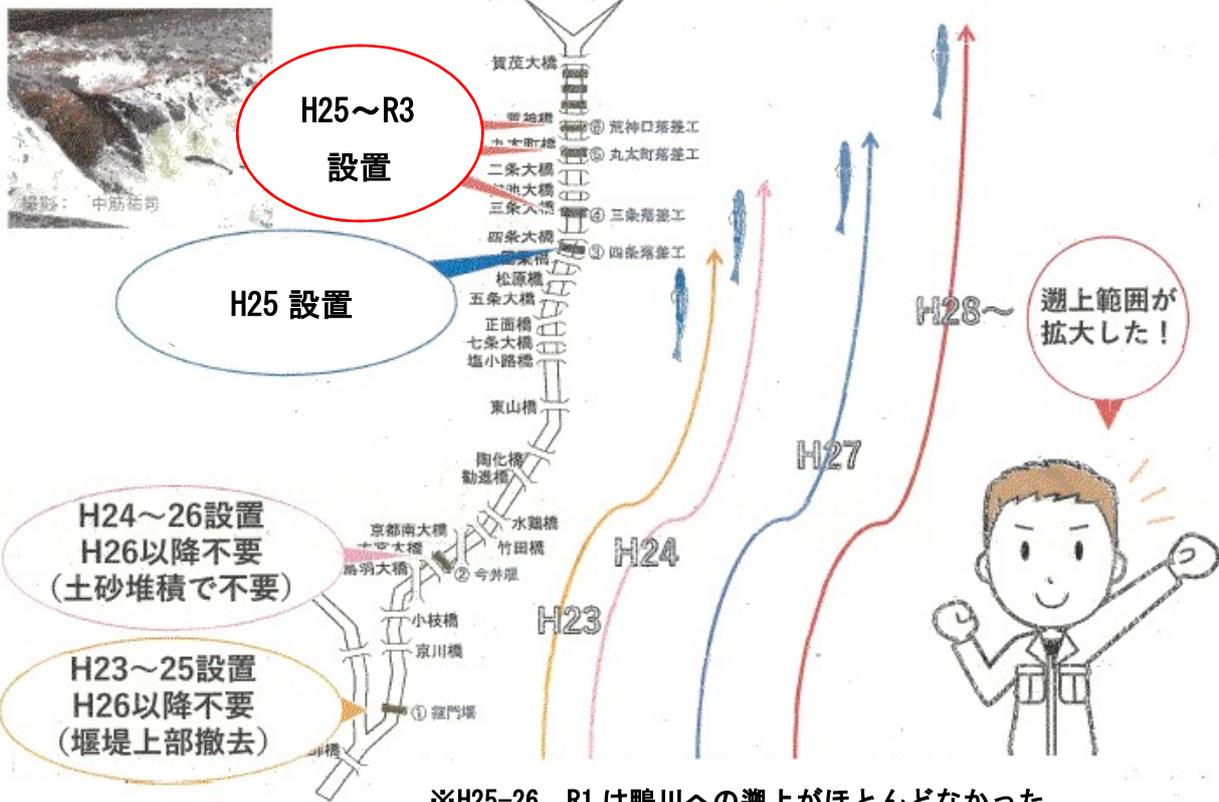
## 2 今年度の取組み

令和3年度も例年どおり、三条、丸太町、荒神口に簡易魚道を設置しました。令和3年の大阪湾からの天然遡上アユの数は34万尾で、令和2年に比べ約9.4万尾多く、過去10年間の調査では上位から3番目に多い数値となり、出町柳周辺まで多くの天然遡上アユが到達したものと考えられます。

3 今年設置した魚道

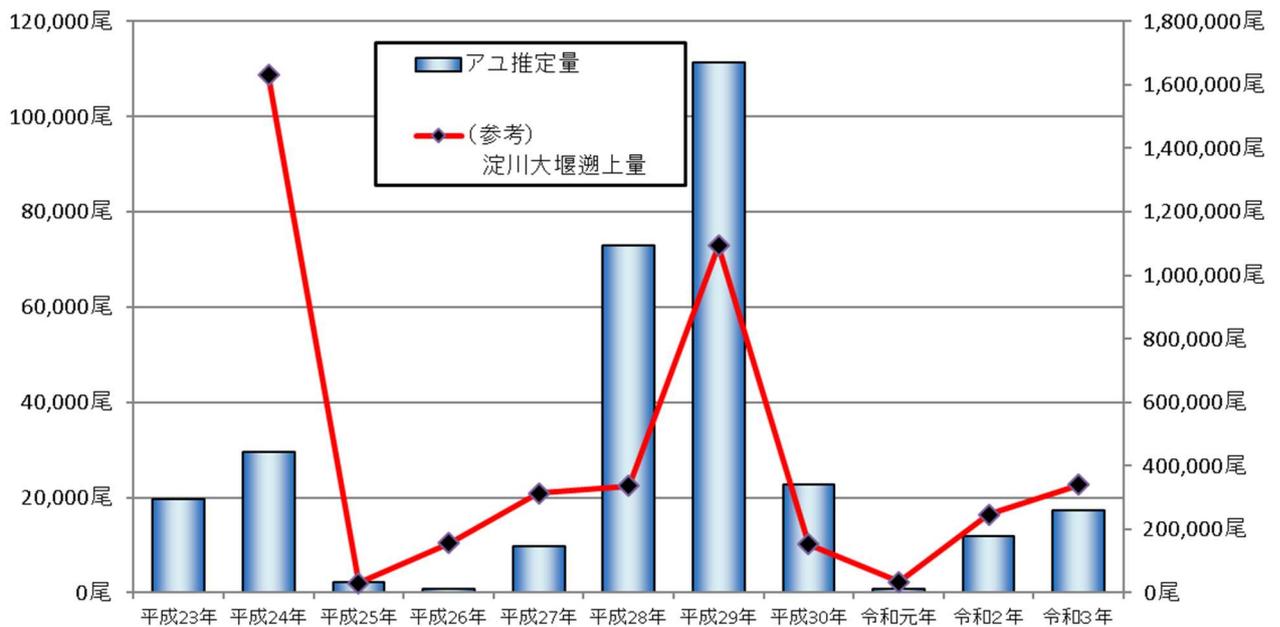


魚道づくりの成果 ~アユの遡上実績~



#### 4 鴨川へのアユ遡上量

	全魚種推定量	アユ推定量	計測箇所	(参考) 淀川大堰遡上量
平成23年	21,858尾	19,672尾	龍門堰魚道	
平成24年	32,407尾	29,490尾	龍門堰魚道	1,630,249尾
平成25年	7,351尾	2,328尾	龍門堰魚道	30,706尾
平成26年	2,463尾	700尾	今井堰魚道	155,594尾
平成27年	11,595尾	9,868尾	今井堰魚道	313,479尾
平成28年	85,688尾	72,925尾	今井堰	336,454尾
平成29年	119,745尾	111,363尾	今井堰	1,093,071尾
平成30年	24,965尾	22,696尾	今井堰	152,973尾
令和元年	4,240尾	848尾	今井堰	34,785尾
令和2年	14,870尾	11,896尾	今井堰	246,216尾
令和3年	24,560尾	17,198尾	今井堰	340,630尾



## 5 今後の課題

- ① 三条・丸太町・荒神口の各落差工の魚道は、毎年設置・撤去しており、その経費や労力が大きな負担となっています。

### ○ 京の川の恵みを活かす会による魚道設置費用

年度	費用	設置箇所	
平 2 3	7 5 3 千円	2 箇所	龍門堰・今井堰
2 4	9 1 0 千円	2 箇所	龍門堰・四条
2 5	1, 0 2 0 千円	5 箇所	龍門堰・今井堰・三条・四条・丸太町
2 6	1, 4 6 9 千円	5 箇所	龍門堰・今井堰・三条・丸太町・荒神口
2 7	1, 1 6 3 千円	4 箇所	今井堰・三条・丸太町・荒神口
2 8	8 3 1 千円	3 箇所	三条・丸太町・荒神口
2 9	9 0 5 千円	3 箇所	三条・丸太町・荒神口
3 0	5 2 6 千円	3 箇所	三条・丸太町・荒神口
令 1	6 6 1 千円	3 箇所	三条・丸太町・荒神口
2	5 6 3 千円	3 箇所	三条・丸太町・荒神口

※ 設置作業も人力によっており、1箇所につき約20人で半日程度の作業が必要。



令和 3. 3. 27 三条魚道設置作業の様子



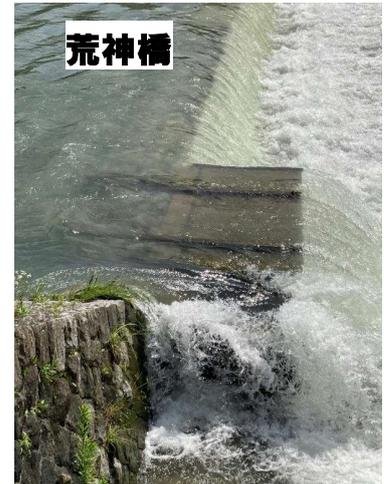
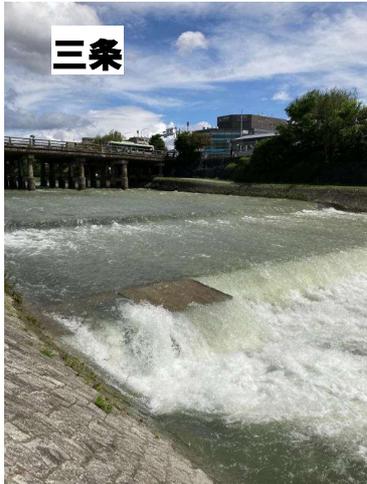
令和 3. 6. 21 丸太町魚道設置作業の様子

- ② 鴨川には魚道を設置している落差工以外にも多数の落差工がありますが、漁協等を中心とした民間団体である「京の川の恵みを活かす会」が更に設置箇所を増やすことは困難です。

## 6 対応の方向性

- ① 魚道を通年設置できれば、冬期におけるハエ（オイカワ）などの生息域拡大にも資すると考えられます。三条・丸太町・荒神口に設置されている木製の簡易魚道は、昨年8月の豪雨・増水でも損傷しなかったことから、複数年の継続設置が検討されています。

※令和3年8月の増水後の魚道の様子



- ② 中州管理等の河川工事実施時に、併せて河川施設として簡易な魚道の設置など縦断方向の連続性確保に配慮した施工を行うことも望まれます。



※ 落差工の修繕において、魚が遡上しやすい形状に配慮  
(賀茂川通学橋下流)



※ 葵橋上流落差工に設置した石積み(練り積み)魚道  
(令 4. 2. 24 撮影)